

法話 「自己責任という無関心」2015.3.1

過激派に日本人が殺害されました。

今もそうですが、自己責任という言葉で、救出に否定的な見方があります。

自己責任ということが救済に左右するなら、例えば、おばあさんが赤信号を無視して車にはねられても、救急車は来ないと思います。

また、たばこの火の不始末や天ぷら油の不注意で火事がおきても、『消火器を用意して自分で消してね』と言われて、消防車も来なくなります。

しかし、現実はこちらの場合もかけつけます。

つまり、消防車も救急車も今その人が犯した罪を問うていません。

今の状態では益々悪化してしまういのちを救うためにかけています。そして、無事に命が助かった時に、警察官やお医者様や消防士から、『これからは赤信号では渡らないでね』、『これからはタバコの火は注意してね』といわれて、『はい、もう二度としません』と犯した行為を自覚します。その時に罪の自覚を促しますが、罰金刑や懲役などで罪を問うことはしません。それが本当の救済です。

罪悪深重の人を必ず阿弥陀仏は救うと言われているお言葉は、阿弥陀仏は罪を問うことなく完全救済して下さっているから、私たちは罪の自覚がうまれたのです。

自己責任論では、どこまでいっても救済という状態にならないのです。それが迷い(自力)です。

世の中の自己責任論は、自己責任という無関心ではないでしょうか。

無関心になりたいために自分と相手を自己責任というナイフで切っているのではと感じています。それでは過激派と同じ行為をしているのです

阿弥陀仏の救済、なもあみだぶつは、『あなたのことに無関心ではないよ』というメッセージなのだと思わっています。 礼拝